

目 次

(1)	学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	
①	学生の確保の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	ア. 定員充足の見込み・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要・・・・・・・・	5
	ウ. 納付金の設定の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・	5
②	学生確保に向けた具体的な取組状況・・・・・・・・	6
(2)	人材需要の動向等社会の要請	
①	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的・・・・・・・・	7
②	上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえた ものであることの客観的な根拠・・・・・・・・	7
	ア. 社会的・地域的な人材需要の見通し・・・・・・・・	7
	イ. 事業所アンケート調査結果の概要・・・・・・・・	8

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生の確保の見通し

ア、定員充足の見込み

本学が新たに設置する看護学部看護学科について、周辺地域における看護系大学の設置状況ならびに志願者動向を調査した。さらに東京都・神奈川県等の高校生に対する進学意向のアンケート調査を実施し、その結果も踏まえて、総合的に判断して本学看護学部看護学科の入学定員を80名とした。以下において入学定員の設定と定員充足の見込みについて説明する。

なお基本計画書に示したように、本学人文学部メディア表現学科の定員超過率0.61（過去4年間平均）となっているが、この学科は平成30年3月31日をもって募集停止とする。

(a)全国における看護系大学の入試動向

まず全国の四年制大学における看護学部の設置状況をみると、平成5年に21大学、定員1,198人であったのが、平成26年には228大学19,684人に飛躍的に増加している。（資料1）

また日本私立学校振興・共済事業団によってまとめられた「平成28年度私立大学・短期大学等入学志願動向」には、看護師養成課程を含む「保健系」学部の平成27年度と平成28年度入学志願動向が示されている。（資料2）

この保健系大学の中、看護学部について前掲の日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」の平成27年度・平成28年度のデータから抽出すると次の通りである。

〔表1〕

	平成 27 年	平成 28 年	増減
集計学部数	78	81	3
入学定員（人）	7,142	7,427	285
志願者（人）	44,257	44,462	205
入学者数（人）	7,738	7,997	259
入学定員充足率（%）	108.35	107.67	△ 0.68

このように日本私立学校振興・共済事業団がまとめた過去二年間のデータによると、四年制私立大学における看護学部の定員充足率は108%前後の数値であり、全体的傾向としては看護学部における学生募集の状況は良好であるといえる。

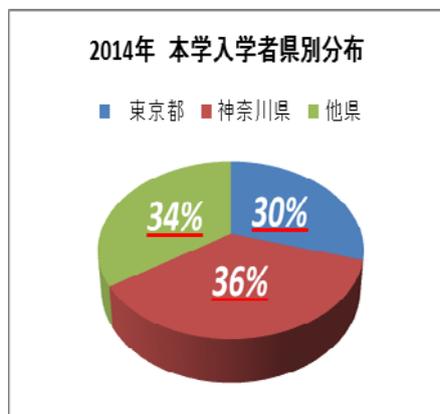
(b)東京都・神奈川県における看護系四年制私立大学の設置状況

本学は東京都稲城市に所在する女子高等教育機関である。稲城市は東京都の多摩市、府中市、調布市、神奈川県の川崎市と隣接しており、地理的には東京都と神奈川県との境に位置している。（資料3）

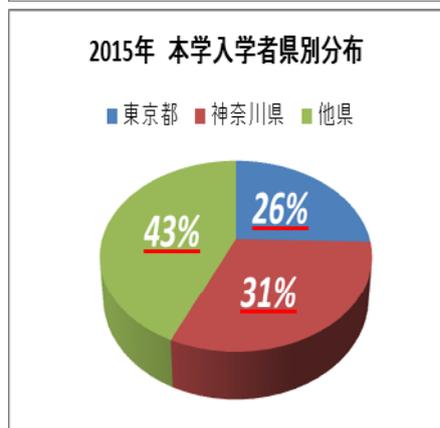
本学に通学するための路線は主に京王相模原線、小田急線、南部線であり、最寄り駅はそれぞれ京王稲城駅、新百合ヶ丘駅、南多摩駅である。これらの路線はいずれも東京都と神奈川県の市町村を結んでおり、本学は東京都・神奈川県出身の学生の占める割合が大きい。

本学入試センターが駒沢女子大学入学者の東京都・神奈川県の出身者数について過去三年間のデータを調査したところ、東京都と神奈川県の出身者が占める割合は、2014年度が66%、2015年が57%、2016年度が59%となっており、いずれも高い数値を示している。

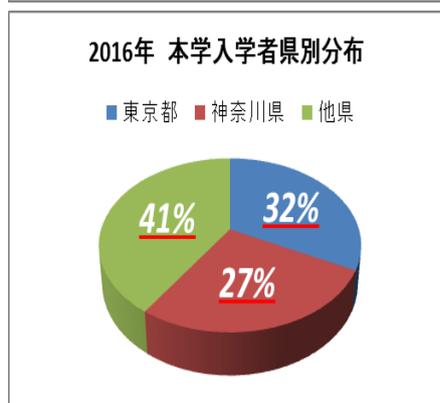
〔図表 1〕



2014年	
東京都	141
神奈川県	171
他県	163
合計	475



2015年	
東京都	125
神奈川県	153
他県	213
合計	491



2016年	
東京都	136
神奈川県	113
他県	170
合計	419

そこで東京都・神奈川県における看護師養成課程を持つ四年制私立大学の設置状況(28年度現在)は次の通りである。

〔表2 東京都・神奈川県における看護師養成課程を持つ四年制私立大学の設置状況〕

	大学名	学部・学科名	設置年度	入学定員
東 京	1 帝京大学	医療技術学部看護学科	2004	130
	2 慶應義塾大学	看護医療学部看護学科	2001	100
	3 杏林大学	保健学部看護学科	1994	120
	4 東京慈恵会医科大学	医学部看護学科	1992	60
	5 東京医科大学	医学部看護学科	2013	80
	6 東京女子医科大学	看護学部看護学科	1998	90
	7 日本赤十字看護大学	看護学部看護学科	1986	130
	8 東京有明医療大学	看護学部看護学科	2009	50
	9 東京医療保健大学	医療保健学部看護学科	2010	100
	10 東京医療保健大学	東が丘・立川看護学部看護学科	2010	200
	11 東京医療学院大学	保健医療学部看護学科	2016	80
	12 聖路加国際大学	看護学部看護学科	1964	75
	13 東邦大学	看護学部看護学科	2011	102
	14 上智大学	総合人間科学部看護学科	2011	70
	15 創価大学	看護学部看護学科	2013	80
	16 帝京科学大学	医療科学部看護学科	2007	80
	17 帝京平成大学	ヒューマンケア学部看護学科	2004	119
	18 共立女子大学	看護学部看護学科	2013	100
	19 武蔵野大学	看護学部看護学科	2006	120
	20 東京工科大学	医療保健学部看護学科	2010	120
	21 東京純心大学	看護学部看護学科	2015	60
神 奈 川	1 湘南医療大学	保健医療学部看護学科	2015	80
	2 神奈川工科大学	看護学部看護学科	2015	80
	3 関東学院大学	看護学部看護学科	2013	80
	4 松蔭大学	看護学部看護学科	2015	100
	5 東海大学	健康科学部保健看護学科	1995	75
	6 横浜創英大学	看護学部看護学科	2012	80
	7 国際医療福祉大学	小田原保健医療学部看護学科	2006	80
	8 昭和大学	保健医療学部看護学科	2002	95
	9 北里大学	看護学部看護学科	1986	100

〔表2〕に示すように東京都と神奈川県における看護師養成課程を有する四年制私立大学は東京都が21校、神奈川県が9校である。

このうち東京都の場合、1970年以前に看護学部もしくは看護学科が設置されたのは1校だけであり、80年代に1校、90年代には3校設置されている。ところが2001年～2010年には9校も新設され、2011年～2016年の6年間で7校新設されているという状況である。

また神奈川県では80年代と90年代にそれぞれ1校ずつ設置されているが、2001年～2010年には2校新設され、2011年～2016年の6年間で5校新設されている。

このうち東京都の多摩地域に所在する大学は、杏林大学保健学部看護学科（三鷹市）・東京慈恵会医科大学医学部看護学科（調布市）・東京医療学院大学保健医療学部看護学科（多摩市）・創価大学看護学部看護学科（八王子市）・武蔵野大学看護学部看護学科（西東京市）・東京純心大学看護学部看護学科（八王子市）の6校であり、いずれも競合校とみられる。

また小田急線沿線で相模大野駅・本厚木駅・伊勢原駅といった主要駅に近接する大学で看護学部を持つのが北里大学看護学部看護学科（相模原市）、神奈川工科大学看護学部看護学科（厚木市）、松蔭大学看護学部看護学科（厚木市）、東海大学健康科学部保健看護学科（伊勢原市）であり、また横浜線の十日町駅を最寄り駅とするのが横浜創英大学看護学部看護学科（横浜市）、昭和大学保健医療学部看護学科（横浜市）であり、これらの大学が本学周辺地域の看護養成課程を持つ競合校といえる。

これらの看護系大学の入試状況は、本学入試センターが作成した「東京・神奈川の看護系大学の過去2年間の入試結果」（資料4）の通りである。

この資料4の2015年度、2016年度の入試状況であるが、一部の大学で志願者数や入学者数等が明らかにされていない。

東京都・神奈川県看護系大学の入試状況を総合的にみると、東京都内の21大学中、平成27年度は20大学が、28年度は19大学が定員を確保し、杏林大学（入学定員120名）のように2015年度には2000人を超える受験生を集めている大学がみられる。受験者数が入学定員の10倍を超える大学は、東京都では帝京大学、杏林大学、東京医療保健大学（医療保健学部看護学科）、帝京平成大学、武蔵野大学であり、神奈川県では関東学院大学、東海大学（2016年度のみ）、国際医療福祉大学（2015年度のみ）である。

こうした高い倍率を出している大学について分析すると、第一に杏林大学、帝京大学、東海大学のように大学病院と医学部が併設され、医療系の伝統を築いている大学であることがわかる。また後発ながらも東京医療保健大学（医療保健学部看護学科）も隣接のNTT東日本病院との強い連携関係があることが強みとなっていると考えられる。第二に立地条件も重要であり、武蔵野大学や帝京平成大学のようにキャンパスが吉祥寺や中野に近いところに所在することが受験生を集める一要因であると推察される。また国際医療福祉大学は神奈川県小田原市に所在し、学生確保において必ずしもよい条件ではないが、キャンパスが小田原駅に隣接するというアクセスのよさが、有利となっていると考えられる。

しかし、こうした入試状況の中で、東京純心大学（八王子市）の充足率は2015年が0.90、2016年が0.3となっており、また松蔭大学（厚木市）も2015年が0.73、2016年が0.45という充足率となっている。両大学の看護学部はいずれも2015年に開設された新しい学部であるが、それぞれ交通アクセスにおいて課題があり、またいずれも看護師国家試験受験資格のみで、保健師国家試験受験資格が取得できないことも大幅な定員割れの一因となっていると推察される。また後者の場合、厚木・伊勢原地区にある東海大学・神奈川工科大学との厳しい競合状況も要因であろう。

さて本学部も医療系としては後発ではあるが、本年は学園創立90周年を迎え、女子教育機関としての長い伝統を有し、大学には人文学部6学科、人間健康学部1学科を置き、幅広い領域において教育研究活動を展開してきた。こうした教育的基盤をふまえ、本学部がその教育の目的である「自己を見つめ、他者への思いやることを備え、科学的根拠と専門的知識・技術に基づいた判断力と探究心をもち備えた看護実践者の育成」を実現すべく努力していくことが肝要である。そのために本学部では豊富な教育実績と臨床経験を有する教員スタッフを多く迎えることができ、それぞれの専門領域において指導力を発揮できる教員を30代から60代までバランスよく揃えることができた。本学部の教育目的に実現すべく教育内容を充実させ、学生募集においても積極的に高校に対して新学部の特長をアピールしていくことにより、安定した学生確保につとめる。

イ、定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

本学が看護学部を平成 30 年 4 月に開設するに当たり、高校生の本看護学部に対する進学意向等を調査する必要がある。そこで高校生を対象とした アンケート調査を実施した。この調査は客観性を保つため第三者機関に委託して実施した。委託したのは一般財団法人日本開発構想研究所である。実施時期は平成 28 年 11 月から平成 29 年 2 月にかけてであった。なお、このアンケートは看護学部と同じ平成 30 年 4 月に開設する人間総合学群に関する項目も含まれている。

このアンケート調査は東京都、神奈川県、埼玉県、静岡県、山梨県の高等学校に在籍する女子生徒を対象に実施した。調査の実施に当たっては、アンケート実施の承諾を得られた 84 校宛に合計 10,323 票のアンケート調査票にパンフレット（資料 5）を添えて送付した。その結果、84 校から合計 8,229 票の有効回答票を回収することができた。有効回答票の回収率は、79.7%であった。

調査の結果は「駒沢女子大学における看護学部／人間総合学群の設置に係る高校生アンケート調査結果報告書」として日本開発構想研究所より報告された。（資料 6）

その結果、8,229 票の有効回答票中、大学進学希望が 5,503 票であり、このうち平成 30 年度入学に該当する高校 2 年生は 4,722 票であった。この高校全体のうち、駒沢女子大学看護学部「非常に興味・関心がある」、「興味・関心がある」、「ある程度の興味・関心がある」と回答した票の合計が 1,595 票となり、高校 2 年生は 1,322 票であった。この 1,322 票について、さらに本看護学部への進学希望者を調査すると、「進学を強く希望する」が 92 票（7.0%）、「進学を希望する」が 140 票（10.6%）、「進学先の一つとして考える」が 612 票（46.3%）となり、その合計は、844 票（63.9%）であり、約 6 割強の回答者が本学看護学部に対して進学希望を持っているということになった。

この調査により、本学部の定員 80 名に対し、「進学を強く希望する」と回答した高校 2 年生が 92 名いることが確認され、定員充足の根拠を得ることができた。

〔表 3〕

上段:度数 下段:%		問7 駒沢女子大学 看護学部への進学希望						
		合計	進学を強く希望する	進学を希望する	進学先の一つとして考える	進学を希望しない	わからない	不明
問1 学年	全体	1595 100.0	106 6.6	187 11.7	742 46.5	281 17.6	263 16.5	16 1.0
	高校2年生	1322 100.0	92 7.0	140 10.6	612 46.3	254 19.2	209 15.8	15 1.1
	その他学年	271 100.0	13 4.8	47 17.3	129 47.6	27 10.0	54 19.9	1 0.4
	不明	2 100.0	1 50.0	-	1 50.0	-	-	-

ウ、納付金の設定の考え方

学生納付金の設定にあたっては、既設の看護系大学のとりわけ近隣大学で看護学部を設置している大学の学納金を参考にし、〔表4〕のように設定した。

本学看護学部は、近年、全国の大学で次々と看護系の学部学科が設置されている状況下に

あつて平成30年度開設は後発であるといえる。しかし本学は看護学部の設置に当たり校舎・施設については、現在使用されていない中学館（鉄筋4階建て）を改修整備し備品等を調えることになっている。これによって設置にかかる経費を押さえることができ、学生納付金を押さえることができる。

そこで本学ではまず既設の人文学部・人間健康学部と同様に入学金を30万円とした。授業料は105万円に設定し、実習費は学年進行に応じて設定し、1年次は15万円、2年次と3年次は30万円、4年次は25万円とした。これによって初年度納入金は180万円、2年次・3年次は165万円、4年次は160万円となり、4年間で計670万円となり、各学年の教育過程の実態に即しつつ、〔表5〕に示したように先行の近隣大学の学費よりも相対的に低くとどめることができた。

〔表4〕

区 分	金 額
入学金	300,000円
授業料等(年間)	1,050,000円
実習費	150,000円
維持費・設備費等	300,000円
初年度納付金合計	1,800,000円
4年間	6,700,000円

〔表5〕

	入学金	授業料	実習費	維持費	4年間
東京医療学院大学	300,000円	1,080,000円	250,000円	300,000円	6,820,000円
共立女子大学	150,000円	1,230,000円	80,000円	300,000円	6,950,000円
神奈川工科大学	190,000円	1,660,000円	0円	0円	6,890,000円

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

平成30年4月に新設される本学部について第三者機関の調査で、本学部に進学希望の受験生が230名以上いることが報告された。こうしたニーズをふまえ本学は以下の取組みを実践することにより安定的な学生確保にめざす。

1) 入試センターによる活動

本学では、学生確保のために入試業務を行う入学センターを設置し、学生募集活動を推進している。教職員による高校訪問の計画を立案し、オープンキャンパス、学外進学相談会などにおいて本学の特長をアピールしている。

2) 高校訪問

毎年5月～6月にかけて指定校をはじめ各高校に教員と職員が高校訪問を実施し、進路指導担当教員に対して募集要項と大学案内を渡し説明に当たっている。

3) オープンキャンパス

現在、5月から12月にかけて年12回開催しており、各学部学科の紹介、体験授業、キャンパスツアー、個別相談を行っている。

4) WEEKDAY CAMPUS VISIT (WCV)

大学生が普段受けている講義に高校生が参加し、大学を自分の目で見極め、学びを体験

することで、自分の進路選択に活かす為の取り組みを年3回（2016年度は5月・10月・11月）実施している。

5) 校内説明会

高校からの依頼に基づき、高校での進学ガイダンスに参加している。

6) 高校説明会

各高校の進路指導担当教員を大学に招き、本学の教育内容を説明し、各学科に相談コーナーを設け、より詳しい説明を行い、また質疑に対応している。

7) IR広報部による広報活動

本学では、広報の専門部署としてIR広報部を設置し、各媒体による広報活動を展開している。特に大学ホームページを通じて最新情報を学外に発信しており、現在の受験生において使用頻度が高まっているスマートフォンの対応も強化している。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

建学の精神である「正念」と「行学一如」に基づき、教育理念として「知性と理性を備えた心豊かな女性の育成」と掲げており、教育の目的を「十分に自己を実現し、新しい文化の創造的担い手となる人間性豊かな現代女性を養成すること」（本学学則第1条）とする。

本看護学部は、教育の目的を「自己を見つめ、他者への思いやることを備え、科学的根拠と専門的知識・技術に基づいた判断力と探究心をもち備えた看護実践者の育成」（第4条3項(9)）とした。教育の目的に即して編成された4年間の教育課程を学修し、卒業に要する所定の単位を修得することを学位授与の要件とする。なお、卒業までに学生が身につける資質・能力として、以下の4つを設定している。

1. 人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間力。
2. 他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性。
3. チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力。
4. 多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠ア、社会的・地域的な人材需要の見通し

看護職員需給見通しについては、これまで5年ごとに策定され、第7次需給見通し（平成23年から27年まで）の策定に至っている。しかし次期の需給見通しの策定については、厚生労働省が主催する「医療従事者の需給に関する検討会」の「看護職員需給分科会」（第1回は平成28年3月28日、第2回は平成28年6月10日）において検討を重ねているところであり、地域医療構想における2025年の医療需要等を踏まえて、平成28、29年の2カ年の看護職員需給見通しは策定していない。すなわち都道府県が平成29年度中に第7次医療計画（平成30～35年度の6年間）を策定することになり、都道府県の地域医療計画との整合性の観点からこの受給見通しは平成30年から策定することとなっている。

一方、社会保障・税一体改革の試算では、団塊の世代が後期高齢者となる平成37年（2025年）に看護職員が約196万人～約206万人必要とされており、厚生労働省によると、今後就業者数が年間平均3万人程度増加したとしても、このペースでは団塊の世代（約800万人）が

75歳以上となる平成37年（2025年）には3万人～13万人が不足すると推計している。（厚生労働省のHPの「看護職員確保対策」の施策紹介〔平成29年3月1日現在〕による）

また、日本看護協会のNews Release(平成28年3月31日)によると、2014年度のナースセンターの求人倍率は2.79倍（求人数18万5578人、求職者数6万6477人）であり、過去10年間で最も高くなっており、看護師不足が益々深刻化していることは明らかである。

また「平成26年衛生行政報告例（就業医療関係者）の概況」（大臣官房統計情報部人口動態・保健社会統計課行政報告統計室 平成27年7月16日）によると、都道府県別に人口10万人当たりの看護師数は、平成26年末の時点で、高知県が1,314.4人と最も多いのに対し、埼玉県が568.9人と最も少なく、次いで千葉県625.1人、神奈川県672.4人、茨城県、愛知県、東京都727.3人の順になっており、東京都・神奈川県が全国平均855.2人を大きく下回っている。また人口10万人当たりの准看護師数では鹿児島県が608.8人と最も多いのに対し、東京都が109.8人と最も少なく、次いで神奈川県が112.5人となっている。（資料7）

さらに都道府県別に人口10万人当たりの保健師数をみると、平成26年末現在で山梨県が70.0人と最も多いのに対し、神奈川県が22.8人と最も少なく、次いで大阪府が24.3人、東京都が25.4人となっている。

こうしたデータから推測されるのは、団塊の世代が後期高齢者来となる2025年に向けて全国的に看護職の供給が求められ、特に本学の学生の主な出身地である東京都・神奈川県においてとりわけ看護師ならびに保健師の特にニーズが高いと考えられる。

イ、事業所アンケート調査結果の概要

新学部設置計画を実行するにあたっては、新学部学科卒業予定者に対する事業所の実際の採用ニーズについて、客観的データに基づいて認識しておく必要がある。そこで本学では、事業所を対象としたアンケート調査を実施した。この調査は客観性を保つため第三者機関に委託して実施した。委託したのは一般財団法人日本開発構想研究所である。実施時期は平成28年12月から平成29年1月にかけてであった。

本調査では、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県に所在する、病院・診療所、訪問看護ステーション、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、合計496事業所に対して合計496票（1事業所につき1票）のアンケート調査票を配布した。その結果、139事業所から合計139票の有効回答票を回収することができた。回収率は、28.0%であった。

調査の結果は「駒沢女子大学における看護学部の設置に係る事業所アンケート調査 調査結果報告書」として日本開発構想研究所より報告された。（資料8）

調査の結果、本学部卒業の看護師資格所有者について、「採用したい」が65事業所（47.1%）、「採用を検討したい」が53事業所（38.4%）、「採用は考えない」が6事業所（4.3%）、「その他」が14事業所（10.1%）、となった。

〔表6〕

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	採用したい	65	46.8	47.1
2	採用を検討したい	53	38.1	38.4
3	採用は考えない	6	4.3	4.3
4	その他	14	10.1	10.1
	不明	1	0.7	
	サンプル数 (%ベース)	139	100.0	100.0

また駒沢女子大学 看護学部看護学科卒業の看護師資格所有者に対する採用想定人数に関

する調査結果は、「1～2人」が51事業所（43.6%）と最も多く、次いで「その他」が29事業所（24.8%）、「3～4人」が23事業所（19.7%）、「5～6人」が8事業所（6.8%）、と続いている。採用想定人数については、「1～2人」が全体の約4割強を占め、最も多かった。

このデータに基づき、採用予定の事業所と採用想定人数を単純に乗じて、採用想定人数全体の算出（選択肢の採用想定人数のうち「1～2人」は1人、「3～4人」は3人、「5～6人」は5人、「7～10人」は7人、「11人以上」は11人、「その他」「不明」は0人、と仮定の上、算出）を試みると、合計159人となった。これは本学部の入学定員の約1.99倍に該当する。

この結果により、本学の定員80名を大幅に上回る採用意向を把握することができた。

[表7]

上段:度数 下段:%		問9 駒沢女子大学 看護学部看護学科卒業の看護師資格所有者に対する採用想定人数							
		合計	1～2人	3～4人	5～6人	7～10人	11人以上	その他	不明
問8 駒沢女子大学 看護学部看護学科卒業の看護師資格所有者に対する採用意向	全体	118	51	23	8	1	5	29	1
		100.0	43.2	19.5	6.8	0.8	4.2	24.6	0.8
	採用したい	65	26	19	5	1	4	9	1
		100.0	40.0	29.2	7.7	1.5	6.2	13.8	1.5
	採用を検討したい	53	25	4	3	-	1	20	-
		100.0	47.2	7.5	5.7	-	1.9	37.7	-
	採用は考えない	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-